

釧路湿原自然再生を巡るコミュニケーションのあり方について

- 自然再生の意義や必要性についての理解と支持をどのように拡大するか？
- 発信すべき情報の内容・対象・手法は？
- 地域内外から期待する情報・反応は何か？
- 来訪者の特性に応じたアプローチは？

1 釧路湿原保全をめぐるコミュニケーションの状況は？

- (1) 情報発信の状況はどうなっているか？（発信主体、目的、対象、メディア、頻度等）
 - 発信主体 / 拠点施設、NPO/NGO、行政（国・道・市町村）、観光施設、マスコミ …
 - 目的 / 集客、公園利用促進、保全意識の啓発 …
 - 対象 / 地域 地域外、大人 子供、不特定多数 特定層・専門家 …
 - 媒体 / 広報誌、ホームページ、広告、テレビ、ラジオ、イベント（シンポジウム、ワークショップ、勉強会等） …
- (2) 釧路湿原の保全を巡るコミュニケーションはとれているか？
 - 関わる主体間
 - 関わる主体と地域
 - 関わる主体と地域外
- (3) 課題は？
 - 調査データや政策を巡る情報の共有
 - 誤解されて伝わっていること
 - 湿原の外側や流域全体での理解の必要性
 - 農林水産業や観光をはじめとする産業との関係

2 自然再生事業をめぐるコミュニケーションの意義・必要性

- (1) なぜコミュニケーションが必要か？
 - 長期にわたる前例のない事業であり、目標設定・進行管理・評価等全てのプロセスにおいて事業実施者と地域との合意形成が極めて大きな意味を持つ。
 - 地域がどのように自然再生事業に関わっていくかが事業の成否を左右する。
 - 世論の関心が得られなければ支持も得られず、参加や協力の動機付けができない。
 - 事業の趣旨や状況を正しく伝える必要がある。
 - 国民や地域住民の意見を常にチェックしておく必要がある。
- (2) コミュニケーションの意義は？
 - 事業主体からみたとき。

- 地域からみたとき。
- 地域外からみたとき。

(3) コミュニケーションの実施主体は？

- 事業実施主体の役割
- 情報発信の主体ごとの可能性と役割分担（期待すること・できること・できないこと・方法）
- 地域を拠点とする人的ネットワークの必要性。

(4) 地域に向けて何が必要か？ / 地域から何を期待するか？

- 合意形成に足るだけの正確な情報・判断力・当事者意識を地域が持つこと。
- 地域内の関心拡大と理解促進により支持・支援・協力を広げることが必要。
湿原の状況や再生事業に関する正確な情報の継続的な発信・普及と一般市民の意見の把握。
関心を拡大するためのきっかけづくり。
情報共有や合意形成のためのしくみづくり・場づくり。

(5) 地域外に向けて何が必要か？ / 地域外から何を期待するか？

- 来訪者への関心拡大と理解の促進を積極的に働きかけ、事業の認知と間接的な支持層を増やしていく。
- 今後の我が国の自然再生のモデルとなる事業であることを踏まえ、その考え方や進捗状況を内外に広く発信し、情報の求心力を生むことが求められる。
事業の存在と内容や状況、支援の必要性等を効果的に伝える仕掛け。

釧路湿原自然再生を活用した環境教育の可能性について

- 自然再生をどのように環境教育に活用していくか？
- 自然再生を活かした環境教育でどのような成果を期待するか？
- 学校教育との連携をどう図っていくか？

1 釧路湿原での環境教育の状況は？

- (1) 環境教育を巡る社会状況は？
 - 環境に対する関心の増大
 - 総合的な学習の時間の開始
 - エコツーリズムへの期待
- (2) 釧路湿原及び周辺での環境教育活動の状況は？
 - 学校教育
 - 拠点施設
 - NPO・NGO
 - ツーリズム
- (3) 釧路湿原の保全における環境教育の課題と方向性？
 - 現在の環境教育活動の成果と課題
 - 誰を対象に何を伝えるべきか？
 - 社会的要請にあった人材や参加機会が用意されているか？

2 自然再生と環境教育の関わり

- (1) 自然再生事業における環境教育の意義は？
 - これまでの釧路湿原への人為的な影響とそれに伴う自然の質的・量的変化の評価
 - 再生の必要性に対する理解
 - 再生方策の検証、参加、共通認識の醸成
- (2) 環境教育のテーマ・題材としての自然再生の意味は？
 - 自然再生を通して伝えられること / 伝えるべきこと。
- (3) 自然再生を活かした環境教育にどのような成果を期待するか？
 - 自然再生への正確な理解
 - 関心の喚起と支持の拡大
 - 参加への動機づけ

3 自然再生の環境教育への活用の可能性

- (1) 学校教育とのリンケージは？
 - 総合的な学習の時間への活用
 - 参加体験型学習の題材としての自然再生
- (2) 社会教育とのリンケージは？
 - 地域からの支持拡大の必要性
 - 生涯学習のテーマとしての自然再生
- (3) 市民活動とのリンケージは？
 - NPO/NGOに蓄積している人材・ノウハウ
 - 市民参加の動機づけ・拡大
 - 活動支援の必要性
- (4) 産業とのリンケージは？
 - 一次産業への理解と支持の拡大に向けて
 - 自然再生における地域産業の役割を明確にしていく必要性
 - 地域内外の企業の参加への動機づけ
- (5) ツーリズムとのリンケージは？
 - 公園利用の一形態としての参加
 - 来訪者に伝えるべきメッセージ

4 必要な条件

- (1) 主体（プロデューサー）は？
 - 誰が推進主体となるべきか
- (2) 役者（指導者、インタープリター）は？
 - 必要な人材
 - 人材育成・確保のあり方
- (3) 場づくりは？
 - どこで実施するか
 - インフラとして必要な機能
- (4) プログラム開発
 - 誰がどのようにプログラムをつくるか